

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。大学では全
面対面授業が再開され、3
年ぶりの学園祭開催など、
徐々にではありますが、学



大東文化学園生活協同組合
専務理事 石橋 健司

内にも活気が戻って来ております。大東文化大学は
2023年度創立100周年を迎え、6月には卒業生を招
待する「ホームカミング」が行われます。生協も食
堂で「100周年記念丼」をご案内する予定でござ
います。4年ぶりに箱根駅伝出場もあり、生協も大学と
ともに盛り上がっていきたくて思っています。

昨年レジも更新され、新たに学食マネーもスタート
しました。大学からの期待も大きくなっておりま
す。学びの分野では現役の大東生が講師となって新
入生に教えるパソコン講座もスタートします。学生
の食と学びをしっかりと支えて参ります。

本年もよろしくお願いいたします。

新年明けましておめで
とうございます。

コロナ禍に入ってから
の2年間はオンライン授業中
心になっており、学生が大
学キャンパスに来ておりま
せんでしたが、2022年度
は4月より対面授業が行わ
れており、学生が登校する
ようになりました。しかし、
大学に来る学生もコロナ禍前
のような状況にはな
っておらず、生協の利用客数
も2019年度と比べ、購買
書籍部で約5割、カフェテ
リアで約6割の利用状況と
なっており、学生のキャン
パス内での大学生活が
変わってしまったように思
えます。



十文字学園生活協同組合
専務理事 大竹 康之

そんな中、10月22日・23日と対面で学園祭が行
われ、生協学生委員会として飲食店（肉巻きおに
ぎり）と平和展（展示会）を行い、対面での学園祭
で2年間味わうことができなかった“やりがい”を
感じられたと思います。

今年度も引き続き with コロナの年になるかと思
います。厳しい状況が続くかと思いますが、生協職員、
学生委員、生協教職員理事などと力を結集し頑張
っていきたくて思っています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のごあいさつ

あけましておめで
とうございます。

昨年も、埼玉県行政をはじめ、埼玉県議会、県内
諸団体の皆様より、当会および埼玉県内の生協に対
し多大なご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

ロシアによるウクライナ侵略の長期化により、世
界情勢も私たちのくらしも大きな影響を受けまし
た。「くらしは平和であってこそ」の思いを新たに
しつつ、食料とエネルギー資源の多くを輸入に頼る
くらしの現実を知り、生産や消費の問題について目
を向けざるを得なくなった年でもありました。

県内の生協は、コロナ禍の出口が見えない中、事
業と活動の両面で「日常」を取り戻す努力をしつつ、
生活困窮者への食料の寄贈、市民団体への助成など
を通じた生活支援を行い、ウクライナ人道支援募
金に取り組むなど、助け合いの組織として積極的に活
動いたしました。

しかしながら足元では、記録的な円安とエネル
ギー資源高、食料価格の高騰がくらしを直撃してい

ます。組合員の節約志向が
顕著となる一方、コストの
上昇により事業も厳しさを
増しています。コロナ禍の
長期化による社会的弱者の
孤立の固定化、物価高騰に
よる貧困と格差拡大、若年
層などの消費者被害も危惧
されます。



埼玉県生活協同組合連合会
会長理事 吉川 尚彦

明るい材料は見出しにくい状況ですが、厳しい局面だ
からこそ、組合員に寄り添い、くらしを支える事業と活
動を進めるとともに、行政・諸団体との連携を深め、世
界的な気候変動、自然災害、食料問題、紛争などの課題
解決に向け、持続可能な社会づくりに貢献していきたく
て思っています。

結びにあたり、皆様のご健勝とご多幸を心より祈念し、
新年のごあいさつといたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

新年あけましておめで
とうございます。

淑徳大学みずほ台生活協
同組合は新年度で26年目
を迎えます。昨年もコロナ
禍による影響も少なくな
ってききましたが、まだ
大変な状況になっています。
淑徳大学埼玉キャン
パスでは学部の再編が行
われ、2023年度から「
経営学部」が東京キャン
パスへ移転し「地域創
成学部」が新設されま
す。学部が変わると大
学や学生から求められる
ことも変わっていきます。
コロナ禍においても生
協の役割は変化してい
ます。そういった中
でも生協が出来ることを
考え、大学・組合員から
必要とされる生協を
目指していきたくて思
います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



淑徳大学みずほ台生活協同組合
専務理事 松原 健司

新年のごあいさつ

あけましておめで
とうございます。

コープデリ連合会は昨
年創立30周年の節目を
無事迎えることができました。
あらためまして感謝
申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行から3年が経過
し、感染拡大は予断を許さない状況が続きながらも
経済活動、日常生活が活発になってきました。しか
しながら、足元ではこれまでにないレベルでエネ
ルギーや食料価格などの高騰が消費者・組合員の
家計を直撃しています。貧困と格差のさらなる
拡大が懸念され、地域に根差した助け合いの組
織としての生協の果たすべき役割はますます重
要になっています。

コープデリグループは昨年、「未来へつなごう」
をスローガンに掲げました。持続可能な社会の
実現に積極的に関与していくとともに、激変する
経営環境に対応し、消費者・組合員に寄り添
う生協の事業と活動に邁進してまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



コープデリ生活協同組合連合会
理事長 土屋 敏夫

新年のごあいさつ

新年あけましておめで
とうございます。2022年は新
型コロナウイルスの感染拡
大だけでなく、ロシアによ
るウクライナ侵攻で世界中
が大きな影響を受けた1年
になりました。パルシステ
ムではグループ全体でウ
クライナ人道危機緊急募
金に取り組み、パルシステ
ム埼玉でも組合員約2万
人から2,100万円を超える
募金が集まりました。平和
はくらしの基盤であり何
より大切です。幅広く平
和について考え、組合員
・市民の立場からできる
ことを一歩ずつすすめたい
と思います。

世界情勢や気候変動、円安も原因とな
ってあらゆる物やエネルギーの価格が
上がり、くらしはますます厳しくな
っています。組合員や産地・メー
カー、地域の方々と一緒にな
ってこの状況に向き合い、助
け合いの組織としての価値を
地域に広げていきたくて思
います。本年もどうぞよろ
しくお願いいたします。



生活協同組合パルシステム埼玉
理事長 樋口 民子

新年のごあいさつ

あけましておめで
とうございます。

コープみらいは「未来
へつなごう」をスロー
ガンに、組合員や取引
先、諸団体などと連携し
た取り組みを進めていま
す。コロナ禍で困難な生
活を強いられている方々
を支援するため、昨年3
月から1年間、約200
トンの米を地域のフード
バンクなど48の団体に
寄贈しています。この
取り組みで米の消費減
少に苦悩する生産者の
応援にもつなげたいと
考えています。「子ども
・子育て支援基金」は、
組合員から書き損じは
がきや未使用切手など
を専用封筒で預かり、
換金で得られた資金を
子どもたちを支援する
内外の団体に活用いた
だくものです。2022
年は3万8千通を超え、
2,400万円の寄付につ
ながりました。

2023年はコープみらい
創立10周年。これからも
組合員の「声」を大切
に、事業と活動を通じ
て組合員のくらしに貢
献してまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



生活協同組合コープみらい
理事長 新井 ちとせ



コパトン さいたまっぴ

新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

昨年は、コロナ感染症対策を取りながら活動をすすめて、少しずつ明るさが出てきました。

デポー越谷の開所により組合員も増え、3店舗になったデポー運営に活気が出てきました。また、教育機関へのゲノム編集トマト苗を受け取らないための活動や、オンラインを利用しながら生産者交流会、学習会の開催もすすみました。埼玉県市民ネットワークと協働して予算要望書及び政策提案書の提出、労働者協同組合法の施行によりワーカーズ・コレクティブ運動への関心が高まりました。

今年は仲間を増やし、いろいろな形で「つながり」を作りたいと思います。一人ではできないこともおおぜいの力でできることがあります。県内各生協や諸団体、行政機関ともつながりを高め、私たちが望む社会づくりをすすめていきたいと思っています。本年もよろしくお祈りいたします。



生活クラブ生活協同組合
理事長 石井 清美

つぎの30年に向けて

新年あけましておめでとうございます。日頃より医療生協の活動をご支援いただき誠にありがとうございます。

医療生協さいたまは、1992年4月に県内にあった6つの医療生協が合併し、30周年を迎えました。この間、多くの方々に支えられながら健康づくりや暮らしやすい街づくりに取り組み、医療・介護事業を拡大させてまいりました。東日本大震災、原発事故、新型コロナパンデミックなど困難な中であっても活動を維持・発展させることができたのも、人と人とのつながりや集うことを大切にしてきたからだと考えております。初心を忘れずに、これからの30年も、地域になくはならない存在として発展させていきたいと考えております。

この新しい年が皆様方にとって健康で笑顔ある一年となることを心より祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



医療生協さいたま生活協同組合
理事長 雪田 慎二

継続は大きな力

組合員に依拠して
さらなる前進を目指します

明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染が始まり3年が経過しようとしています。事業運営にも大きな影響を受けています。新たな日常生活を一日も早くスタートさせたいものです。

私たちは、総代会で掲げたスローガン「組合員の信頼に応え組合員を主人公に」を目指して活動し、昨年8月、創立30周年を迎えました。組合員はじめ、関係各位のお力添えと感謝申し上げます。今年も「SDGs」に貢献する取り組みをはじめ、憲法を守る運動、平和を求める運動などを事業活動と合わせて取り組んでいきます。

今年が皆様方にとって健康で、笑顔あふれる年になることをお祈りし、新年のあいさつといたします。



さいたま住宅生活協同組合
理事長 後藤 晴雄

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

「最悪」と形容された生活協同組合・さいたま高齢協介護保険法の改正案が理事長 坂林 哲雄「先送り」となりました。

介護保険は超高齢社会を支える大切な社会保障制度で、制度の維持継続は絶対に必要です。しかし、制度維持の為に給付抑制と負担増を合わせた改正案には様々な懸念があります。中でも、利用料金を上げるという案は、介護を必要不可欠とする高齢者からサービスを奪う可能性があります。値段が倍になれば買えない人が出てきます。サービスを買えず、今ある生活を継続できないことは、高齢者福祉にとって最悪です。

さいたま高齢協は、元気な高齢者がもっと元気に暮らし、超少子高齢社会の支え手になることが役割です。しかし、確実に必要となる介護を一部の専門家や関係者の議論に留めず、国民的な関心を喚起するのも私たち生協の役割ではないかと思っています。



生活協同組合・さいたま高齢協
理事長 坂林 哲雄

新年のごあいさつ

お健やかに新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

ここ数年のコロナの影響は依然拡大と縮小をくり返し、変動する国際情勢の中で多くの人々に、不安な日常生活をもたらし、今も終息の兆しが見られない状況にあります。

私たちは感染拡大防止に向け、手指の消毒、手洗いうがい、三密を避けるなど基本の対策が引きつづき求められています。

このような中で、生協の活動も、全国的に衣食住等に亘る福祉への取り組みに組合員から大きな期待が寄せられています。

当生協は前年に引き続き賃貸住宅等の住環境の老朽化対策として、メンテナンスの向上に努める所存です。

新年を迎え組合員皆様のご健勝を、心よりご祈念申し上げ、今年も宜しくお祈り申し上げます。



埼玉県労働者生活協同組合
理事長 関根 正道

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

埼玉県では昨年6月の県北部・県東部での降雹、また、7月の鳩山町を中心とした記録的大雨により住宅や車両等へ大きな被害がありました。被災された皆さまに謹んでお見舞いを申し上げますとともに、被害を受けられた組合員の皆さまの早期の生活再建に向け、迅速な損害調査および共済金のお支払いに努め、最後のお一人までしっかりとお支払いの対応にあたります。

本年も、こくみん共済coopでは「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の理念のもと、子どもの健全育成や社会課題の解決に寄与する取り組みなど、組合員の皆さまに寄り添い安心して生活が送れるよう、安心と信頼の「共済生活協同組合」の役割を果たしてまいります。

結びに皆さまのご健勝を心よりご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



埼玉県労働者共済生活協同組合
理事長 金井 浩

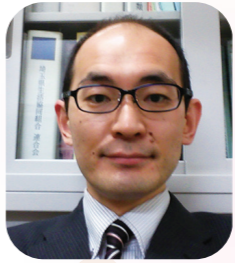
新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、今なお埼玉大学生協にも影響を及ぼしています。2022年度は原則対面授業となり大学に学生の姿が戻ってきましたが、2019年以前と比べるとまだ70%程度の状況です。一方、夏休み期間以降は課外活動の制限も緩和され大学祭も3年振りに開催されました。生協も新入生交流会や保護者説明会など対面での企画の実施も再開させ、本来の活動が戻ってきています。

このような状況の中、埼玉大生協では大学生同士の交流やコミュニティ作りなどに貢献できるように様々な取り組みを行っていきます。現在も4月からの新入生を迎えるべく、教職員・学生委員会一同となって準備を行っております。

本年もどうぞよろしくお祈りいたします。



埼玉大学生生活協同組合
専務理事 河本 健太郎

新年のごあいさつ

跡見学園女子大学生生活協同組合
専務理事 吉永 治礼

新年明けましておめでとうございます。

跡見学園女子大学では、10月からようやく「原則対面講義」となり、昼休みの需要など、にぎわう時間も増え、友達との会話、笑いあう様子などが見受けられ、日常を取り戻しつつあります。

しかし、2019年度比較で5割ほどの回復状況で依然として厳しい経営状況は続いております。

いまだに対面講義でも、友人がいなくて居場所がない、友人とつながれず孤独など、大きな不安が聞かれています。

生協では、どうしたら学生さんの“危機”に対応していけるのか、感謝されるために何ができるか、試行錯誤の毎日です。学生と協力し、この“危機”に総体で取り組んでいく決意です。

本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

